

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007 ～2010
課題番号：19592490
研究課題名（和文）軽度発達障害児と家族のためのソーシャルサポートシステムの開発と運用
研究課題名（英文）Development and Implementation of social support system for the mild developmental disability children and their families.
研究代表者
南前恵子（MINAMIMAE KEIKO）
鳥取大学・医学部・准教授
研究者番号：30252878

研究代表者の専門分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：発達障害、ソーシャルサポート、療育相談、電子メール、家族支援

1. 研究計画の概要

軽度発達障害児をとりまく問題として、家族への支援方法が明確でない、最初に児の発達の遅れに気づきやすい保育士や教諭の対処方法が確立していない、各専門職者の連携がスムーズではなくソーシャルサポートとして機能しにくいということが我々の調査から明らかになった。そこで、本研究は以下の3点を目的として進める。

(1) 携帯電話を使用した個別療育相談の有効性を検証する。

方法は鳥取大学医学部附属病院の脳神経小児科を受診し、軽度発達障害と診断された児の親で研究の主旨を理解し研究対象者となることを承諾した親を対象とし、携帯電話の電子メール機能を用いて療育上の不安・心配・悩み事を送ってもらう。相談に関する回答は、研究代表者が担当医師とカンファレンスで内容を確認して、メールで回答する。相談事がないときも、2週間に1回は近況報告をしてもらい、受診時に療育相談について聞き取り調査をし、効果を評価する。

(2) 診断までの経過における問題点を明らかにする。

小学校教諭、幼稚園教諭・保育士を対象に軽度発達障害の子どもや親に対する対応や診断されていない子どもの発達の遅れに気づいた場合どのように対処しているのかをアンケート調査により明らかにする。

(3) 軽度発達障害児をとりまく専門職者の連携の現状と課題を明らかにし、望ましい連携のとり方を検討する。希望者により学習グ

ループを作り検討する。

小学校教諭、幼稚園教諭・保育士に対し専門職者間での連携に対して困難を感じていることについてアンケート調査を行う。さらに小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、保健師にインタビューをすることによって、連携の現状と課題をあきらかにし、どのような連携に連携をとるべきか検討する。

2. 研究の進捗状況

(1) 電子メールを使用した個別療育相談は継続中である。対象者は10名だったが、転出等により、現在は6名になった。開始後1年くらいまでは子どもの発達のこと、学校とのトラブルのことなどの相談があったが、現在はほとんど経過報告のみである。相談者からはいつでも相談できるということで、心の安定が保てるという評価を得ている。

(2) 診断までの問題点と専門職種間の連携については、幼稚園の教諭と保育士（240名対象）と、小学校の教諭（770名対象）に対して、発達障害児とのかかわり方や、保護者、関係機関等との連携をどのように行い、どのような点に困難を感じているかについてアンケート調査を実施した。また、小学校の特別支援教育コーディネーター（150名対象）には発達障害の子どもへの支援システムの実際と問題点についてアンケート調査を実施した。幼稚園の教諭、保育士、小学校教諭は発達障害のある子どもを担当したことがあると答えた人のうち、ほとんどの人が「困ったことがあった」と答えた。困ったときの相談相手はLD等専門員、教育センター相談員などがあつた。保護者の理解不足のため専門機関との連携がとりにくいと感じている人が多かつた。小学校の特別支援コーディネ

ネーターは学級担任などを兼務していることが多意ことがわかった。そのため、コーディネーター本来の仕事が出来ないことにジレンマを感じている人が多かった。

専門職者間の連携については、インタビューによってさらに具体的な課題を明確にしていく。

学習グループは希望者が少なく、まだ実施できていない。

3. 現在までの達成度

④遅れている

(理由) インタビューは今年度中に終了予定であったが、対象者とのスケジュール調査がはかどらず、予定よりやや遅れている。学習会の実施は希望者が少なく実施できていない。

4. 今後の研究の推進方策

インタビューは、8月までに終了する予定である。22年度中に解析も可能である。

インタビューと平行して、学習会のニーズを把握し会合がもてない場合にでも、データ解析等の情報発信をしていく予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2 件)

①中田峰子、南前恵子、発達障害のある子どもへの支援に伴う保育者の困難感—幼稚園・保育園の職員へのアンケート調査より—、第 56 回日本小児保健学会、2009 年 10 月 30 日、大阪国際会議場

②南前恵子、発達、行動面で気になる子どもへの気づきと対応—幼稚園・保育園の職員へのアンケート調査より—、第 56 回日本小児保健学会、2009 年 10 月 31 日、大阪国際会議場